

### 名前の由来など

夏に紫の花を咲かせるキク科のシオン(紫菀)に似ているので、「春に咲く紫菀」という意味で名づけられた「ハルジオン」には春紫菀という漢字が当てはめられた。これに対して「ヒメジョオン」は紫菀より小さくかわいい花を咲かせるので、「小さく可愛い」をあらわす「姫」をつけて、「姫紫菀」となるはずであった。ところがヒメジョオンが日本に来た明治時代には「姫紫菀」というキク科の植物がすでに存在していた。そのため「姫紫菀」と区別するためにわざわざ「女菀」という字が当てられた。ハルジオンは大正時代の中ごろに観賞用として日本に入ったといわれる。どちらも日本の侵略的外来種ワースト100に選定されている。

### 花の特徴

ハルジオンの花期は4～6月

頭花は白色～淡紅色の舌状花（ピンク色が多い）と、中心の黄色い管状花からなる。つぼみの時には花柄がたれてうつむく。

ヒメジョオンの花期は5～10月

ハルジオンよりも開花が遅く長期間咲くのがヒメジョオン。つぼみは垂れない。ほとんどが白色の花びら。

### 葉と茎の特徴

ハルジオンの茎につく葉には葉柄がなく、基部は耳形となって茎を抱く。茎は直立し上部は中空。

根生葉は長楕円形で花時にも残る。細い地下茎でふえて群生する。

・ヒメジョオンは茎葉は基部が次第にせばまり、茎を抱かない。茎の中心部は白い髓が詰まり中空ではない。根生葉は卵形で花時には枯れている。

ヒメジョオンのほうが背が高く、花は小さくて数が多い。

### 繁殖力

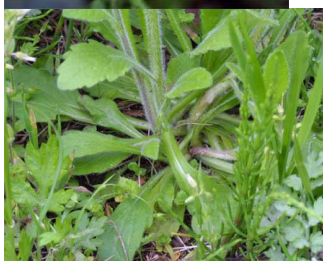
ヒメジョオンは1固体あたり47000以上の種子を生産し、さらにその種子の寿命が35年と長いこともあり、驚異的な繁殖能力を持っているので駆除が難しい。花の咲く期間もハルジオンより長いので、ハルジオンよりもよく繁殖するとの印象を受ける。しかしヒメジョオンが種子だけで増える植物であるのに対し、ハルジオンは冬に土の中に根を残しており、そこから芽を出すこともできるので、繁殖競争をしたら、ハルジオンの方が勝つだろう。(田中修氏)



ハルジオンの花



ヒメジョオンの花



ハルジオンの根生葉



ヒメジョオンの葉